

#追跡調査時の割合 (%)はベースライン調査時を元に算出した。
 男女間の比較は年齢を調整したMantel-haenszel testを用いた。
 * $p < 0.05$

図1 運動実施状況の変化

め、多重ロジスティック回帰分析を実施した。まず、運動の開始の関連要因の分析を行った。分析対象は、ベースライン調査時に運動習慣なしと回答した者とし、追跡調査時の運動の開始の有無を従属変数とした。次に、運動の継続の関連要因の分析を行った。分析対象は、ベースライン時に運動習慣ありと回答した者とし、追跡調査時の運動の継続の有無を従属変数とした。いずれの分析においても、独立変数にはベースライン時の年齢、老研式活動能力指標得点、身体的要因として歩行速度、肥満の有無、痛みの有無、外来通院の有無、精神的要因として主観的健康感、抑うつ度、社会活動性としてグループ活動の有無、趣味の有無を用いた。肥満については、BMI 25.0以上を肥満²⁸⁾、25.0未満を肥満なしの2値とした。

また、運動習慣の割合は男女で異なるため^{18, 21, 29)}、解析は男女別に実施した。統計学的有意水準は5%未満とした。

Ⅲ. 結 果

ベースライン調査時における運動習慣ありの割合は、全体で13.9% (143人)、男性17.4% (76人)、女性11.3% (67人)であり、男性で高かった ($p <$

0.01) (表2)。

ベースライン調査時から追跡調査時における運動の実施状況を図1に示した。ベースライン調査時に運動習慣なしのうち、運動開始の割合は、男性6.1% (22人)、女性の4.6% (24人)であった。また、運動習慣ありのうち、運動継続の割合は、男性73.7% (56人)、女性52.2% (35人)であり、男性で高かった ($p < 0.05$)。

運動開始者における運動の内容と頻度を求めた (表3)。運動の内容でもっとも多かったのが、グラウンドゴルフ (47.8%)、ついでゲートボール (30.4%)、ゴルフ (15.2%)であった。週あたりの運動実施頻度は、毎日が15.2%、5~6日が0%、2~4日が39.1%、1日以下が45.7%であった。

運動実施状況別にベースライン調査時の各変数を比較した (表4a,b)。その結果、運動開始と運動非実施の間で有意な差がみられたのは、男性で、通常歩行速度 ($p < 0.05$)、グループ活動の有無 ($p < 0.01$)、女性では、BMI ($p < 0.05$)、通常歩行速度 ($p < 0.01$)、グループ活動の有無 ($p < 0.001$)、趣味の有無 ($p < 0.05$)であった。また、運動継続と運動中止の間で有意な差がみられたのは、男性

表2 調査対象者のベースライン調査時の特性

	全体 (n = 1029)	男性 (n = 436)	女性 (n = 593)	
年齢; 歳 (平均±SD)	72.0±5.9	71.3±5.5	72.5±6.2	**
BMI; kg/m ² (平均±SD)	22.9±3.3	22.3±2.9	23.4±3.4	***
主観的健康感; 健康 (%)	72.5	75.9	69.9	*
総合的移動能力; 遠出可能 (%)	89.4	94.5	85.6	***
老研式活動能力指標; 点 (平均±SD)	11.3±2.4	11.7±2.0	10.9±2.6	***
抑うつ傾向; あり (%)	24.2	18.8	28.2	**
運動習慣; あり (%)	13.9	17.4	11.3	**
主な運動の種類 (%)				
ゲートボール	62.9	63.2	62.7	
ダンス	6.3	5.3	7.5	
その他	44.8	51.3	37.3	
週あたりの運動実施の頻度 (%)				
毎日	15.4	11.8	19.4	
5~6日	4.9	5.3	4.5	
2~4日	42.7	47.4	37.3	
1日以下	35.7	34.2	37.3	
回答無	1.4	1.3	1.5	

BMI; Body mass index

男女間における比較は、離散量の検定に χ^2 test, 連続量の検定にt-testを用いた。

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表3 「運動習慣なし」と回答した者における運動開始時の運動の内容と頻度

	男性 (n = 22)		女性 (n = 24)		全体 (n = 46)	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
運動の種類						
ゲートボール	8	(36.4)	6	(25.0)	14	(30.4)
ジョギング	2	(9.1)	1	(4.2)	3	(6.5)
ゴルフ	4	(18.2)	3	(12.5)	7	(15.2)
武道	1	(4.5)	0	(0.0)	1	(2.2)
その他	13	(59.1)	15	(62.5)	28	(60.9)
(その他の内訳)						
グラウンドゴルフ	9	(40.9)	13	(54.2)	22	(47.8)
野球	2	(9.1)	0	(0.0)	2	(4.3)
バレーボール	1	(4.5)	0	(0.0)	1	(2.2)
卓球	0	(0.0)	1	(4.2)	1	(2.2)
筋力トレーニング	1	(4.5)	0	(0.0)	1	(2.2)
その他	0	(0.0)	1	(4.2)	1	(2.2)
運動の実施頻度						
毎日/週	2	(9.1)	5	(20.8)	7	(15.2)
5~6日/週	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
2~4日/週	10	(45.5)	8	(33.3)	18	(39.1)
1日以下/週	10	(45.5)	11	(45.8)	21	(45.7)

表4 a. 運動開始者と運動非実施者のベースライン調査時の各変数の比較

	男性		女性	
	運動非実施 (n = 338)	運動開始 (n = 22)	運動非実施 (n = 502)	運動開始 (n = 24)
BMI; kg/m ² (平均±SD)	22.4±3.0	21.5±2.9	23.3±3.5	24.9±2.4 *
通常歩行速度; m/s (平均±SD)	1.22±0.24	1.37±0.13 *	1.10±0.27	1.30±0.15 **
痛みの有無;あり (%)	50.9	40.9	70.1	66.7
外来通院;あり (%)	71.3	63.6	80.9	83.3
主観的健康感;健康 (%)	74.6	90.9	68.5	79.2
抑うつ傾向;あり (%)	20.7	9.1	30.3	16.7
老研式活動能力指標;点 (平均±SD)	11.6±2.2	12.4±1.0	10.7±2.7	12.0±1.4
グループ活動;あり (%)	34.0	63.6 **	34.7	87.5 ***
趣味;あり (%)	59.2	77.3	49.8	79.2 *
主な既往症				
高血圧;あり (%)	37.9	22.7	45.6	50.0
脳卒中;あり (%)	8.6	4.5	4.0	4.2
心臓病;あり (%)	19.2	13.6	18.1	20.8
糖尿病;あり (%)	4.4	0.0	6.0	4.2
筋骨格系の痛みの部位				
腰 (%)	21.0	9.1	33.9	37.5
膝 (%)	20.4	18.2	36.5	41.7
肩 (%)	9.5	9.1	7.8	16.7
下肢全体 (%)	5.3	0.0	9.0	8.3

離散量の検定には年齢を調整したMantel-haenszel test, 連続量の検定には年齢を調整した共分散分析を用いた。
* p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001

表4 b. 運動継続者と運動中止者のベースライン調査時の各変数の比較

	男性		女性	
	運動中止 (n = 20)	運動継続 (n = 56)	運動中止 (n = 32)	運動継続 (n = 35)
BMI; kg/m ² (平均±SD)	22.9±2.8	22.1±2.5	23.3±2.9	23.0±3.2
通常歩行速度; m/s (平均±SD)	1.24±0.22	1.33±0.26	1.19±0.36	1.23±0.25
痛みの有無;あり (%)	75.0	41.1 *	68.8	62.9
外来通院;あり (%)	65.0	67.9	81.3	85.7
主観的健康感;健康 (%)	60.0	83.9	75.0	80.0
抑うつ傾向;あり (%)	10.0	14.3	18.8	14.3
老研式活動能力指標;点 (平均±SD)	12.1±1.4	12.3±1.0	11.7±2.3	12.3±1.2
グループ活動;あり (%)	80.0	94.6	75.0	94.3
趣味;あり (%)	85.0	80.4	62.5	88.6 *
主な既往症				
高血圧;あり (%)	30.0	41.1	65.6	51.4
脳卒中;あり (%)	10.0	5.4	9.4	5.7
心臓病;あり (%)	10.0	23.2	28.1	28.6
糖尿病;あり (%)	5.0	5.4	12.5	14.3
筋骨格系の痛みの部位				
腰 (%)	25.0	16.1	37.5	11.4 *
膝 (%)	35.0	19.6	37.5	31.4
肩 (%)	15.0	5.4	18.8	8.6
下肢全体 (%)	10.0	1.8	9.4	8.6

離散量の検定には年齢を調整したMantel-haenszel test, 連続量の検定には年齢を調整した共分散分析を用いた。
* p < 0.05

表5 ロジスティック回帰分析による運動の開始および運動の継続の関連要因

	運動の開始		運動の継続	
	男性 (n = 284)	女性 (n = 432)	男性 (n = 72)	女性 (n = 61)
	OR (95% CI)	OR (95% CI)	OR (95% CI)	OR (95% CI)
年齢	0.97 (0.86-1.09)	0.94 (0.82-1.07)	1.04 (0.91-1.19)	1.04 (0.92-1.18)
老研式活動能力指標	1.38 (0.76-2.54)	1.13 (0.78-1.64)	1.26 (0.72-2.18)	1.41 (0.96-2.08)
肥満	0.56 (0.11-2.82)	1.32 (0.49-3.58)	0.18 (0.03-0.99) *	6.61 (1.00-43.6) *
歩行速度	1.63 (0.89-2.99)	2.21 (1.24-3.93) **	0.92 (0.45-1.91)	1.31 (0.64-2.69)
痛み	0.70 (0.23-2.13)	1.24 (0.45-3.44)	0.10 (0.02-0.58) *	1.80 (0.41-7.94)
外来通院	0.98 (0.32-3.00)	1.04 (0.29-3.82)	4.88 (1.01-23.5) *	1.88 (0.32-11.1)
主観的健康感	-	1.07 (0.33-3.46)	7.01 (1.24-39.8) *	3.62 (0.54-24.5)
抑うつ傾向	1.24 (0.24-6.51)	1.04 (0.29-3.66)	6.28 (0.50-78.6)	1.64 (0.24-11.0)
グループ活動	3.10 (1.04-9.20) *	13.2 (3.57-48.5) ***	25.9 (1.84-365.1) *	7.27 (1.01-52.5) *
趣味	2.32 (0.58-9.25)	2.57 (0.77-8.61)	0.83 (0.14-4.85)	9.98 (1.66-60.0) *

OR: Odds Ratio, 95% CI: 95% Confidence Intervals.

従属変数: 運動の開始状況 (0. 運動なし, 1. 開始) / 運動の継続状況 (0. 中止, 1. 継続)

独立変数: 年齢 (実数), 老研式活動能力指標得点 (実数), 肥満 (0. BMI25.0 未満, 1. BMI25.0 以上), 歩行速度 (4 分位), 痛み (0. なし, 1. あり), 外来通院 (0. なし, 1. あり), 主観的健康感 (0. 健康ではない, 1. 健康), 抑うつ傾向 (0. なし, 1. あり), グループ活動 (0. なし, 1. あり), 趣味 (0. なし, 1. あり)

すべての変数を同時に投入し分析を実施した。項目に欠損が認められたケースは、解析から除いた男性の運動開始において、主観的健康感分布の偏りにより値が算出されなかった。

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

では痛みの有無 ($p < 0.05$), 女性では, 趣味の有無 ($p < 0.05$), 腰の痛みの有無 ($p < 0.05$) であった。

運動の開始および運動の継続に関連する要因の分析について多重ロジスティック回帰分析を用いて検討した (表 5)。その結果, 運動の開始には, 男女でグループ活動, 女性で歩行速度が関連した。また, 運動の継続には, 男性では, 肥満, 痛み, 外来通院, 主観的健康感, グループ活動, 女性では, 肥満, グループ活動, 趣味が関連した。

IV. 考 察

高齢者における運動習慣の定着を規定する要因を明らかにし, 高齢者の運動習慣の促進を図ることは重要である。本研究では, 地域に在住する高齢者を対象に運動の実施状況を明らかにし, 高齢者の運動の開始および運動の継続に関連する要因について検討した。

本研究の結果, ベースライン調査時における運動習慣ありの割合は男性 17.4%, 女性 11.3% と

男性で多かった。40 ~ 70 歳未満の地域住民を対象に実施された調査では, よく運動する人の割合は男性で 14.2%, 女性で 11.1%²⁹⁾, 60 歳以上を対象とした調査では運動をしている者の割合は, 男性 55%, 女性 38%²¹⁾ と報告されている。上述のように調査ごとに分布が異なるのは, 対象集団や使用する項目の違いによるものと考えられる。しかし, 運動実施者の割合はいずれの調査でも女性に比べ男性で多く, 本研究の結果は, 先行研究と一致した。女性は男性より筋量が少なく, 加齢に伴う身体機能の低下が起こりやすい。それを抑制するためにも, 高齢女性における運動の実施は重要であり, 運動の必要性の認識や, 運動への参加を促す適切な対策が必要である。

本研究の結果, 運動の開始に女性で歩行速度が関連し, 歩行機能が高いことが運動の開始に関連することが示された。中程度の健康度や身体機能の高さが, 運動の開始に関連することが報告されており¹⁸⁾, 本知見は先行研究の結果と一致した。このことから, 女性の運動開始には, 身体機能の

維持が重要であることが考えられた。

運動の継続に、男性で痛みが関連し、痛みがない場合に運動を継続していた。運動継続の妨げになる要因に身体的な障害があげられている²²⁾。高齢期では、慢性的な痛みは多くみられる。本研究の痛みをもつ者の割合は、男性50.2%、女性69.5%であった。この点から、運動を継続させるためには、痛みを改善させるような取り組みが必要であることが考えられた。

運動の継続に、男性で外来通院が関連し、外来通院がある場合に運動を継続していた。これは、通院者は自身の健康への関心が高く、保健行動の一環として適度な運動を実施しているのではないかと考えられた。この点については今後さらに検討する必要がある。

運動の継続に、男性では肥満のないこと、これに対し女性では肥満があることが関連した。男性でやせ(BMI 18.5以下)に当てはまるのは2.8%(2人)であり、男性では標準体重の者が、女性では肥満がある者が運動を継続し、男女で異なる結果となった。運動の実施には一定以上の健康度が必要であり、女性の肥満者は健康度が高いことも推察された。肥満との関連については今後さらに検討したい。

運動の継続に主観的健康感が関連し、主観的健康感が高い場合に運動を継続していた。主観的健康感が運動の実施に関与することが報告されており^{20, 22)}、本研究の結果も先行研究と同様な結果であった。

運動の継続に、男女でグループ活動に参加していること、女性で趣味があることが関連し、社会活動性が高いことが運動の継続に影響していた。身近な友人が活動的であることは運動の継続の要因として報告されている²¹⁾。本研究では直接、活動的な友人や配偶者がいるかどうかについての聞き取り項目は設定していないが、グループ活動における交友活動を考慮すると、一部の活発な参加者に誘導され、運動を継続していることが考えられた。さらに、グループ活動は運動の開始にも関

与しており、運動の開始および運動の継続のいずれにも影響を及ぼしていた。この結果は、地域の会や老人クラブなどのグループ活動が、運動を開始するきっかけであると同時に運動を継続させる要因であることを示す。運動習慣を定着させるためには、これらのグループ活動を活用し、高齢者における運動の効果や必要性、また適切な運動方法についてグループ活動の内容に盛り込むことが有効である。さらに、趣味やグループ活動など社会活動そのものへの参加を促すことも運動習慣の定着に有効であることが考えられた。他方、女性は男性に比べて、グループでの運動の実施を好む傾向があることが示されており²²⁾、運動実施の割合が低い女性の運動への参加を促す方策として、グループ活動は有効な手段であることが考えられた。

最後に本研究の限界について述べる。第一に本研究の対象地区では1996年より健診結果説明会や老人クラブなどの参加者を対象に、年に数回行政主催の健康学習会を実施した³⁰⁾。運動については講話を中心とした内容であり本研究に対する健康学習会の影響は軽微であると考えられた。第二に本研究は2年間における比較的短期間の運動の開始および運動の継続について分析を実施した。さらに長期間にわたる運動定着の関連要因については今後の課題である。

V. 結 語

本研究の結果、運動習慣がある者の割合は女性に比べ男性で高かった。また、運動の開始には、男女共に高齢者のグループ活動に参加していること、女性では歩行機能が高いことが関連した。一方、運動の継続には、男女共にグループ活動に参加していること、男性では肥満がないこと、身体的な痛みがないこと、外来通院をしていること、主観的健康感が高いこと、女性では肥満があること、趣味があることが関連した。これらのことから、運動実施者の増加のためには、身体機能の維持や痛みの緩和などの取り組みが必要であるこ

と、老人クラブや趣味の会などグループ活動の場が運動の実施を促進させる有効な手段として活用できること、さらに社会活動そのものを促すことも運動習慣の定着に有効であることが考えられた。

本研究は東京都老人総合研究所プロジェクト「中年からの老化予防総合的長期追跡研究」の一環として行われた。本研究にご協力いただきました旧南外村役場のみなさま、論文作成にあたりご助言いただきました東北文化学園大学の芳賀博先生、石巻専修大学の山崎省一先生、その他関係者のみなさまに感謝申し上げます。

文 献

- 1) Binder EF, Schechtman KB, Ehsani AA, et al. : Effects of exercise training on frailty in community-dwelling older adults ; Results of a randomized, controlled trial. *J Am Geriatr Soc*, 50 (12) : 1921 - 1928 (2002).
- 2) Simonsick EM, Guralnik JM, Volpato S, et al. : Just get out the door! Importance of walking outside the home for maintaining mobility ; Findings from the women's health and aging study. *J Am Geriatr Soc*, 53 (2) : 198 - 203 (2005).
- 3) Morgan K, Bath PA : Customary physical activity and psychological wellbeing ; A longitudinal study. *Age Ageing*, 27 Suppl 335 - 340 (1998).
- 4) Strawbridge WJ, Deleger S, Roberts RE, et al. : Physical activity reduces the risk of subsequent depression for older adults. *Am J Epidemiol*, 156 (4) : 328 - 334 (2002).
- 5) 前田 清, 太田壽城, 芳賀 博ほか : 高齢者の QOL に対する身体活動習慣の影響. *日本公衆衛生雑誌*, 49 (6) : 497 - 506 (2002).
- 6) Ferrucci L, Izmirlan G, Leveille S, et al. : Smoking, physical activity, and active life expectancy. *Am J Epidemiol*, 149 (7) : 645 - 653 (1999).
- 7) Leveille SG, Guralnik JM, Ferrucci L, et al. : Aging successfully until death in old age ; Opportunities for increasing active life expectancy. *Am J Epidemiol*, 149 (7) : 654 - 664 (1999).
- 8) Hays LM, Clark DO : Correlates of physical activity in a sample of older adults with type 2 diabetes. *Diabetes Care*, 22 (5) : 706 - 712 (1999).
- 9) Kemmler W, Lauber D, Weineck J, et al. : Benefits of 2 years of intense exercise on bone density, physical fitness, and blood lipids in early postmenopausal osteopenic women ; Results of the Erlangen Fitness Osteoporosis Prevention Study (EFOPS). *Arch Intern Med*, 164 (10) : 1084 - 1091 (2004).
- 10) Wannamethee SG, Shaper AG, Walker M : Changes in physical activity, mortality, and incidence of coronary heart disease in older men. *Lancet*, 351 (9116) : 1603 - 1608 (1998).
- 11) Landi F, Cesari M, Onder G, et al. : Physical activity and mortality in frail, community-living elderly patients. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*, 59 (8) : 833 - 837 (2004).
- 12) Oida Y, Kitabatake Y, Nishijima Y, et al. : Effects of a 5-year exercise-centered health-promoting programme on mortality and ADL impairment in the elderly. *Age Ageing*, 32 (6) : 585 - 592 (2003).
- 13) Stessman J, Maaravi Y, Hammerman-Rozenberg R, et al. : The effects of physical activity on mortality in the Jerusalem 70-Year-Olds Longitudinal Study. *J Am Geriatr Soc*, 48 (5) : 499 - 504 (2000).
- 14) Morey MC, Pieper CF, Crowley GM, et al. : Exercise adherence and 10-year mortality in chronically ill older adults. *J Am Geriatr Soc*, 50 (12) : 1929 - 1933 (2002).
- 15) 財団法人健康・体力づくり事業財団 : 健康日本 21, 91 - 98, (2000).
- 16) 厚生省保健医療局地域保険・健康増進栄養課生活習慣病対策室 : 国民栄養の現状, 48, 第一出版, 東京 (1997).
- 17) 健康・栄養情報研究会 : 国民栄養の現状, 64, 第一出版, 東京 (2002).
- 18) Burton LC, Shapiro S, German PS : Determinants of physical activity initiation and maintenance among community-dwelling older persons. *Prev Med*, 29 (5) : 422 - 430 (1999).
- 19) Schmidt JA, Gruman C, King MB, et al. : Attrition in

- an exercise intervention ; A comparison of early and later dropouts. *J Am Geriatr Soc*, 48 (8) : 952 - 960 (2000).
- 20) Prohaska TR, Peters K, Warren JS : Sources of attrition in a church-based exercise program for older African-Americans. *Am J Health Promot*, 14 (6) : 380 - 385, (2000).
- 21) Booth ML, Owen N, Bauman A, et al. : Social-cognitive and perceived environment influences associated with physical activity in older Australians. *Prev Med*, 31 (1) : 15 - 22 (2000).
- 22) Booth ML, Bauman A, Owen N, et al. : Physical activity preferences, preferred sources of assistance, and perceived barriers to increased activity among physically inactive Australians. *Prev Med*, 26 (1) : 131 - 137 (1997).
- 23) 柴田 博 : 中年からの老化予防プロジェクト (TMIG-LISA) の概要. 中年からの老化予防・総合的長期追跡研究 ; 5年間の中間報告, 9-21, 東京 (1997).
- 24) 杉浦美穂, 長崎 浩, 古名丈人ほか : 地域高齢者の歩行能力 4年間の縦断変化. *体力科学*, 47 (4) : 443 - 452 (1998).
- 25) 矢富直美 : 日本老人における老人用うつスケール (GDS) 短縮版の因子構造と項目特性の検討. *老年社会科学*, 16 : 29 - 36 (1994).
- 26) 古谷野亘, 柴田 博, 中里克治 : 地域老人における活動能力の測定 ; 老研式活動能力指標の開発. *日本公衆衛生雑誌*, 34 (3) : 109 - 114 (1987).
- 27) Schreiner AS, Hayakawa H, Morimoto T, et al. : Screening for late life depression ; Cut-off scores for the Geriatric Depression Scale and the Cornell Scale for Depression in Dementia among Japanese subjects. *Int J Geriatr Psychiatry*, 18 (6) : 498 - 505 (2003).
- 28) 松澤佑次, 井上修二, 池田義雄ほか : 新しい肥満の判定と肥満症の診断基準. *肥満研究*, 6 (1) : 18 - 28 (2000).
- 29) 笹澤吉明, 竹内一夫, 太田晶子ほか : 地域の中老年者の運動習慣と心身の自覚症状等との関連. *日本公衆衛生雑誌*, 46 (8) : 624 - 637 (1999).
- 30) Kumagai S, Watanabe S, Shibata H, et al. : An intervention study to improve the nutritional status of functionally competent community-living senior citizens. *Geriatrics and Gerontology International*, 3 (Suppl) : 21 - 26 (2003).

Factors associated with initiation and maintenance of physical activity among rural community-dwelling elderly

Yuko Yoshida*¹, Shu Kumagai*², Hajime Iwasa*¹, Miho Sugiura*¹, Hunkyung Kim*¹
Hideyo Yoshida*¹, Taketo Furuna*³, Yoshinori Fujiwara*⁴, Shoji Shinkai*⁴
Shuichiro Watanabe*⁵, Takao Suzuki*¹

*¹ Research team for promoting independence of elderly, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

*² Department of health and nutrition, University of Human Arts and Sciences

*³ Sapporo Medical University School of Medicine

*⁴ Research team for social participation and health promotion, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

*⁵ Graduate School of International Studies, Obirin University

Background: The present study was conducted to identify the determinants of initiation and maintenance of physical activity among community-dwelling elderly.

Methods: The subjects were 436 men and 593 women aged 65 and older who participated in a baseline survey and were subsequently followed annually for 2 years. Determinant of initiation of physical activity was limited to persons physically inactive at baseline, and maintenance of physical activity was limited to persons physically active.

Results: Multiple logistic regression analysis showed that participating in social activity with group in men and women, and faster walking speed in women was positively associated with initiation of physical exercise. Participating in social activity with group in men and women, and normal weight (BMI<25.0), having no pain, outpatient going, good self-rated health in men, and overweight (BMI>25.0), having a hobby in women were positively associated with maintenance of physical activity.

Conclusion: High social activity and maintenance of health states are very important factors to promote physical activity.

Key words : initiation of physical activity, maintenance of physical activity, social activity, physical fitness, community-dwelling elderly



ORIGINAL ARTICLE

The nutritional status of frail elderly with care needs according to the mini-nutritional assessment

Sachiko Izawa^a, Masafumi Kuzuya^{a,*}, Kiwako Okada^a, Hiromi Enoki^a,
Teruhiko Koike^a, Shigeru Kanda^b, Akihisa Iguchi^a

^aDepartment of Geriatric, Nagoya University, Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

^bKaname Hospital, Nagoya, Japan

Received 2 December 2005; accepted 21 May 2006

KEYWORDS

Elderly;
Nutritional status;
The MNA
classification;
Care needs

Summary

Background and aims: Although malnutrition is common in the geriatric population, the relationship between frail elderly with various care needs and nutritional status remains unknown. The purpose of this study was to analyze the association between subjects with higher care needs and poorer nutritional status in the Japanese community-dwelling frail elderly.

Methods: A total of 281 community-dwelling elderly subjects from day-care centers (81.9 ± 7.2 yr of age mean \pm SD; 72 men and 209 women) who were eligible for Long-Term Care Insurance were enrolled in this study to evaluate their nutritional status using the mini-nutritional assessment. The levels of care needs of participants were classified into six levels according to the Long-Term Care Insurance program.

Results: According to the mini-nutritional assessment classification, 39.9%, 51.2%, and 8.9% of the participants were assessed as well-nourished, at-risk of malnutrition, and malnourished, respectively. There were significant differences among the six groups with regard to the nutritional status; subjects with higher care needs were associated with poorer nutritional status. In the higher care needs group, more than half of the subjects did not know their weight change during 3-month intervals.

Conclusions: The population of elderly with higher care needs in the community is associated with a higher prevalence of malnutrition.

© 2006 Elsevier Ltd and European Society for Clinical Nutrition and Metabolism. All rights reserved.

Introduction

Good nutritional status is crucial for “a healthy life” and malnutrition is related to an increased incidence of morbidity and mortality in the elderly.¹ The

*Corresponding author. Tel.: +81 52 744 2364;

fax: +81 52 744 2371.

E-mail address: kuzuya@med.nagoya-u.ac.jp (M. Kuzuya).

relationship between poor nutritional status and impaired immune functions, pressure sores, and impaired muscle function is well established.^{2,3} For these reasons, it has been proposed that a nutritional status risk assessment be incorporated as an essential component of the comprehensive geriatric evaluation, which should be performed in all elderly people. Clinical assessment tools for determining the nutritional status of the elderly have recently been developed, but are not yet fully used.⁴⁻⁶ Among those is the mini-nutritional assessment (MNA), which is a simple clinical scale for the evaluation of the nutritional status of frail elderly subjects. The MNA has been validated in elderly people by comparing its results with those of clinical assessments performed by expert geriatric nutritionists.^{7,8} It is a cheap and easy way of screening elderly individuals to detect those who are at-risk of developing complications caused by malnutrition. Recently the researchers of the present study evaluated the MNA test as a screening tool for malnutrition in the Japanese elderly population from which it was concluded that the MNA full test is a useful screening tool for identifying Japanese elderly with malnutrition or a risk of malnutrition.⁹

On 1 April 2000, Japan started a public, mandatory Long-Term Care Insurance (LTCI) program for elderly people who need assistance.¹⁰ The program covers nearly the full cost of institutional or community-based care (formal services only), depending on the level of care needed. The instrument used to classify the level of care needs was developed based on a large-scale time study of professional caregivers in LTC institutions.¹¹ The data on approximately 10 million minutes of care provided by 2376 professionals to 3800 seniors were coded into 328 predetermined care activities, and the amount of time the caregiver spent on each senior was calculated for each activity. These data were used to develop tree regression models. Everyone of age 65 years and older, plus anyone of age 40–64 years with an aging-related disability (i.e., Alzheimer's disease or stroke), is eligible for LTCI. After individuals (or their families) apply to the municipal government for assistance, an on-site assessment is conducted of each applicant's physical and mental status. Eligibility is strictly a matter of age, physical and mental status, and whether or not the individual has undergone medical procedures; income and family situation do not matter. The results are entered into a computer and the applicant's standardized scores are calculated for seven dimensions including physical (e.g. washing face, putting on and taking off a jacket, taking medication, financial management, utilization of telephone) and mental status (e.g. understanding

daily schedule, short memory, remember own name), and the estimated time required for eight categories of care (grooming/bathing, eating, using the toilet, transferring, assistance with instrumental activities of daily living, behavioral problems, rehabilitation, and medical services). A care-needs level based on the total estimated care minutes is then assigned to each individual. The assessment is analyzed so that each applicant can be classified into one of the six levels (or rejected), according to the level of care needed. An expert committee reviews the classification by taking into account the descriptive statements plus a report from the applicant's doctor. If dissatisfied with the decision, applicants may appeal to an agency at the prefecture level and ultimately to the courts. The lowest level, called the "assistance required" level, is assigned if the total amount of time to care is less than 32 min per day at home (Need support). The other five levels are called "care required" levels, ranging from the lowest requirement of care (care level 1) to the most severe (care level 5) need of care. Level 5 is assigned if the total amount of time to care is more than 110 min per day at home. Eligibility is to be re-evaluated every 6 months.^{10,11}

Because data on the nutritional status of frail elderly individuals who are community-dwelling and eligible for LTCI remains scant, the purpose of this study was to obtain information about the nutritional status of individuals who are eligible for LTCI by using the MNA, and to analyze whether or not the subjects with a higher level of care needs are associated with poorer nutritional status.

Materials and methods

Subjects

The subjects of this study were recruited from four Domiciliary Care Centers in Aichi, Gifu, and Mie Prefecture, Japan, in February 2004. The subjects were frail individuals who were community-dwelling and utilized the center for training with a physical therapist and other services. These services were covered by LTCI, and all of the subjects had registered with the Domiciliary Care Center individually.

Using the MNA, the nutritional status of 304 subjects who had no difficulty in communicating with the researchers and utilized a care center during examination period was analyzed. The analysis included 281 (72 men and 209 women) subjects who agreed to participate in this study, had a complete MNA, and were 65 years old or older.

Informed written consent was obtained from each subject, or from a family member. The study protocol was approved by the Human Ethics Review Committee of Nagoya University Graduate School of Medicine.

Nutritional assessment

The MNA is composed of 18 items, including anthropometric measurements [weight, height, mid-arm circumference (MAC), calf circumference (CC), and weight loss during the past 3 months], a global assessment (six questions related to life-style, medication, and mobility), a dietary assessment (eight questions related to number of meals, food and fluid intake, and autonomy of feeding), and a subjective assessment (self-perception of health and nutrition). The maximum score is 30 points, with the risk of malnutrition increasing with lower scores.⁷

The MNA score was used to classify subjects as well-nourished (a score of 24–30), at-risk for malnutrition (a score of 17–23.5), or malnourished (a score of <17) according to the original cut-off point of the MNA full test.¹² Body mass index (BMI) is defined as weight in kilograms, divided by height squared. The MNA was administered by dietitians, except for the mental state and medication MNA questionnaire which was obtained from nursing staff members or medical records.

Statistical analysis

All analyses were conducted using SPSS statistical software (Version 11.0J for Windows).

A probability value of 0.05 or less was considered significant.

Partial correlation coefficients were used to measure the association between variables. Differ-

ences among the six care levels were determined by analysis of variance with a Bonferroni correction or the Kruskal–Wallis test, depending on the distribution of the analyzed variable. The χ^2 -test was used to test categorical variables. To examine the relationship between the care levels of subjects and body weight change, body weight change in the past 3 months was classified into four groups (a) weight loss greater than 3 kg, (b) does not know the weight change, (c) weight loss between 1 and 3 kg, and (d) no weight loss. This classification is included in one of 18 items of the MNA.

Results

The subjects' characteristics are presented in Table 1. The average age of the subjects was 81.9 ± 7.2 (SD range: 65–99 years). BMI averaged 22.1 ± 3.8 (SD) and ranged from 12.8 to 34.6. MNA scores averaged 22.5 ± 3.8 (SD) and ranged from a minimum of 10.0 to a maximum of 30.0, with a median of 23.0. The most common eligibility status observed in the participants was care level 1.

Table 2 shows the mean results of variables, which are expressed according to the care levels. There were significant differences among the six care levels with regard to BMI ($P = 0.03$), CC ($P < 0.001$), and MNA scores ($P < 0.001$), but not MAC. Subjects who were classified as care level 5 had significant lower BMI, CC, and MNA than (as a result of Bonferroni correction). A significant correlation was found between the care levels and anthropometric measurements after adjustments for age and gender (BMI: $r = -0.173$, $P = 0.004$, CC: $r = -0.329$, $P < 0.001$). There was a significant correlation between MNA scores and the care level of LTCI ($r = -0.416$, $P < 0.001$),

Table 1 Subject characteristics.

Number of subjects (men/women)	281 (72/209)
Age (yr), mean \pm SD	81.9 ± 7.2
Body mass index (kg/m ²), mean \pm SD	22.1 ± 3.8
Mid-arm circumference (cm), mean \pm SD	23.9 ± 3.8
Calf circumference (cm), mean \pm SD	30.7 ± 3.5
MNA score, mean \pm SD	22.5 ± 3.8
Number of subjects at each LTCI care needs levels, <i>n</i> (% of total)	
Need support (≥ 25 , <32 estimated total care minutes per day)	27 (9.6)
Level 1 (≥ 32 , <50 estimated total care minutes per day)	130 (40.3)
Level 2 (≥ 50 , <70 estimated total care minutes per day)	57 (20.3)
Level 3 (≥ 70 , <90 estimated total care minutes per day)	28 (10.0)
Level 4 (≥ 90 , <110 estimated total care minutes per day)	27 (6.6)
Level 5 (≥ 110 estimated total care minutes per day)	12 (4.3)

Table 2 LTCl care needs levels and gender, age, anthropometric measurements, MNA scores.

	Need support (n = 27)	Level 1 (n = 130)	Level 2 (n = 57)	Level 3 (n = 28)	Level 4 (n = 27)	Level 5 (n = 12)	P
Men/women (n)	4/23	33/97	12/45	8/20	10/17	5/7	0.318*
Age (yr), mean ± SD	84.7 ± 5.0	82.0 ± 7.1	81.9 ± 7.9	81.4 ± 7.0	79.7 ± 7.9	80.7 ± 7.0	0.215†
BMI (kg/m ²), mean ± SD	21.6 ± 3.7	22.4 ± 3.6	22.9 ± 4.0	22.3 ± 4.0	20.3 ± 3.7	19.5 ± 3.3	0.003‡
Mid-arm circumference (cm), mean ± SD	23.9 ± 2.8	23.9 ± 3.3	23.5 ± 4.0	24.3 ± 3.1	23.5 ± 3.4	22.2 ± 2.1	0.155‡
Calf circumference (cm), mean ± SD	31.1 ± 2.5	31.4 ± 3.5	30.4 ± 3.4	30.9 ± 3.4	29.0 ± 2.8	26.5 ± 2.8	<0.001‡
MNA scores, mean ± SD	24.2 ± 3.3	23.1 ± 3.1	22.8 ± 3.5	22.7 ± 3.5	19.8 ± 3.5	15.6 ± 3.7	<0.001§

Bonferroni correction. BMI: Level 1 vs Level 4 ($P = 0.046$); Level 2 vs Level 4 ($P = 0.022$); Level 2 vs Level 5 ($P = 0.04$)

Calf circumference: Need support vs Level 4 ($P = 0.019$), Level 5 ($P < 0.001$); Level 1 vs Level 4 ($P = 0.001$), Level 5 ($P < 0.001$); Level 2 vs Level 5 ($P = 0.001$); Level 3 vs Level 5 ($P = 0.001$).

MNA scores: Needsupport vs Level 4 or Level 5 ($P < 0.001$); Level 1 vs Level 4 or Level 5 ($P < 0.001$); Level 2 vs Level 4 or Level 5 ($P < 0.001$); Level 3 vs Level 5 ($P < 0.001$); Level 4 vs Level 5 ($P = 0.003$).

* χ^2 -test.

†Analysis of variance.

‡Means were adjusted for gender and age using analysis of covariance.

§Kruskal-Wallis test.

Table 3 LTCl care needs levels and mini-nutritional assessment.

	Need support (n = 27) n (%)	Level 1 (n = 130) n (%)	Level 2 (n = 57) n (%)	Level 3 (n = 28) n (%)	Level 4 (n = 27) n (%)	Level 5 (n = 12) n (%)	Total (n = 281) n (%)	P
Malnourished (<17points)	1 (3.7)	5 (3.8)	4 (7.0)	1 (3.6)	6 (22.2)	8 (66.7)	25 (8.9)	<0.001*
At risk for malnutrition (17–23.5points)	9 (33.3)	68 (52.3)	30 (52.6)	16 (57.1)	17 (63.0)	4 (33.3)	144 (51.2)	
Well nourished (≥24points)	17 (63.0)	57 (43.8)	23 (40.4)	11 (39.3)	4 (14.8)	0	112 (39.9)	

* χ^2 -test.

which suggests that subjects with a higher care requirement are associated with a higher prevalence of malnutrition.

Table 3 shows the distribution of the nutritional status according to the care levels of the participants. Seventeen (63.0%) subjects who were classified at 'Need support' and 57 (43.8%) subjects at level 1 were identified as well-nourished. Sixty-eight (52.3%) subjects who were classified at level 1 and 30 (52.6%) subjects at level 2 were identified as at-risk for malnutrition. Six (22.2%) subjects who were classified at level 4 and 8 (66.7%) subjects at level 5 were identified as malnourished. There

were significant differences among the three groups with regard to level of LTCl ($P < 0.001$).

Table 4 shows the relationship between weight change categories and care level of LTCl. Nineteen (70.4%) subjects who were classified at 'Need support' and 94 (72.3%) subjects who were classified at level 1 had not lost any weight during the previous 3 months, suggesting that subjects with low care requirements are associated with a higher prevalence of the absence of weight loss. Seven (58.3%) subjects who were classified at level 5 did not know that they had undergone weight loss during the previous 3 months.

Table 4 LTCI care needs levels and weight loss during 3 months.

	Need support (n = 27) n (%)	Level 1 (n = 130) n (%)	Level 2 (n = 57) n (%)	Level 3 (n = 28) n (%)	Level 4 (n = 27) n (%)	Level 5 (n = 12) n (%)	Total (n = 281) n (%)	P
								0.002*
Greater than 3 kg	1 (3.7)	3 (2.3)	4 (7.0)	3 (10.7)	2 (7.4)	1 (8.3)	14 (5.0)	
Does not know	3 (11.1)	12 (9.2)	7 (12.3)	4 (14.3)	7 (25.9)	7 (58.3)	40 (14.2)	
Between 1 and 3 kg	4 (14.8)	21 (16.2)	8 (14.0)	2 (7.1)	6 (22.2)	0 (0.0)	41 (15.6)	
No weight loss	19 (70.4)	94 (72.3)	38 (66.7)	19 (67.9)	12 (44.4)	4 (33.3)	186 (66.2)	

* χ^2 -test.

Discussion

In the present study, 51.2% of subjects who were community-dwelling and eligible for LTCI were at-risk of malnutrition, and 8.9% were malnourished, according to the MNA classification. There were few subjects who were identified as well-nourished. In agreement with others' research and a previous study conducted by the researchers of the present study, the care level of LTCI was well correlated with anthropometric variables including BMI, and CC. It has been reported that in a study of 250 domiciliary care clients in Australia (average age—79.5 years, age range—67–99 years), 38.4% of the subjects were at-risk of malnutrition, and 4.8% were malnourished.¹³ Soini et al.¹⁴ reported in Finland, as classified by the MNA, 48% and 3% of the 178 home-care elderly (average age—83.5 years age range—75–94 years) were evaluated as at-risk of malnutrition and malnourished respectively. The higher prevalence of being at-risk of malnutrition and being malnourished among participants in this study may be due to the higher frailty of its subjects.

Although it has been reported that disability in activities of daily living (ADL) is associated with poor nutritional status,¹⁵ other studies have shown no such association. In fact, it has been demonstrated that there is no relation between ADL dependency and MNA scores.¹⁶ It should be noted that the care level of LTCI does not reflect only the ADL dependency of the clients, since the six levels of LTCI are dependent upon the total care needs. These needs are reflected not only by physical and mental status, but also by the need for medical assistance. This study demonstrated that subjects with higher care needs (i.e., higher eligible care level) are associated with poorer nutritional status, and the care level in the LTCI policy was classified based on the estimated amount of time the caregiver spent on each care recipient, suggesting

that the total amount of time to care correlates with the nutritional status of frail elderly in the community. However, it should be noted that even at the lowest level, known as 'assistance required' (Need support), more than 30% of the subjects were diagnosed as at-risk of malnutrition and at care level 1, more than 52% of the subjects were thus diagnosed. The results indicate that the nutritional status starts to decline even before the need for care begins to develop. It was assumed in this study that the decline of nutritional status may contribute to the need for a greater level of care.

In elderly individuals the loss of body weight, apart from intentional weight reduction for overweight individuals, almost inevitably leads to poor health outcomes.^{17–19} The decline in body weight after the age of 60 is disproportionately due to the loss of lean body tissue (i.e., sarcopenia); this has adverse effects on physical function.^{20–23} Although body weight is easily measured, and a decline in body weight is a useful critical first sign of malnutrition, it is not unusual for body weight measurement to be neglected in day-care centers. Indeed, there was only one institution among the four domiciliary care centers studied that had been measuring body weight periodically before the present study. Furthermore, elderly individuals as well as their families are often not aware of their weight. These more frail elderly individuals are often the most difficult to weigh. In fact, we demonstrated that 58.3% of participants at care level 5 or 25.9% of participants at level 4 did not know their weight changes, indicating the negligence of weight measurement of subjects with higher levels of care needs. The lack of awareness among the staff members in day-care centers of the weight and changes in weight of their clients, as well as a similar lack of awareness among family members, indicates that little attention has been paid to the nutritional status of frail

elderly individuals in the community, despite the fact that many of them are already malnourished or at-risk of malnutrition. Early detection of malnutrition is important so that targeted nutritional intervention can be performed, and it should be a key component of the geriatric assessment. The regular measurement of the weight of clients is an indicator of the quality of care provided in day-care centers. Although weight loss is sometimes unavoidable in the frail elderly, early awareness of weight loss in day-care center clients will lead to an early and appropriate response to their weight loss by family or medical staff. In addition, this could lead to the thought that a part of the care requirement in the high levels of LTCI may be due to nutritional risk which might be treatable in order to reduce the care requirement at that level.

In conclusion, this study found that undernourishment was common in the community-dwelling elderly using day-care services covered by the LTCI program and the amount of time of care was associated with poorer nutritional status. Physicians, nurses, and dietitians who participate in providing health care to these frail elderly individuals should pay close attention to their nutritional status.

Acknowledgments

This study was supported by Kobayashi Kinen Hospital, Gamagori Koseikan Hospital, Tomitahama Hospital and Hana Topia Kani. We acknowledge four dietitians: E. Muramatsu, E. Kato, T. Fukuda and T. Yamada.

References

- Volkert D, Hubsch S, Oster P, Schlierf G. Nutritional support and functional status in undernourished geriatric patients during hospitalization and 6 month follow up. *Aging Clin Exp Res* 1996;8:386-95.
- Akner G, Cederholm T. Treatment of protein-energy malnutrition in chronic nonmalignant disorders. *Am J Clin Nutr* 2001;74:6-24.
- Margetts BM, Thomason RL, Elia M, Jackson AA. Prevalence of risk of undernutrition is associated with poor health status in older people in the UK. *Eur J Clin Nutr* 2003;57:69-74.
- Detsky AS, Baker JP, Mendelson RA, Wolman SL, Wesson DE, Jeejeebhoy KN. Evaluating the accuracy of nutritional assessment techniques applied to hospitalized patients. Methodology and comparison. *J Parenter Enteral Nutr* 1984;8:153-9.
- Hirsch S, de Obaldia N, Peterman M, et al. Subjective global assessment of nutritional status: further validation. *Nutrition* 1991;7:35-7.
- Antonelli Incalzi R, Landi F, Cipriani L, Bruno E, Pagano F, Gemma A, et al. Nutritional assessment: a primary component of multidimensional geriatric assessment in the acute care setting. *J Am Geriatr Soc* 1996;44:166-74.
- Guigoz Y, Vellas B, Garry PJ. *Mini Nutritional Assessment: a practical assessment tool for grading the nutritional status of elderly patients. Facts and Research in Gerontology*. Paris: Serdi Publishing; 1994. p. 15-59.
- Vellas B, Guigoz Y, Garry PJ, et al. The Mini Nutritional Assessment (MNA) and its use in grading the nutritional state of elderly patients. *Nutrition* 1999;15:116-22.
- Kuzuya M, Kanda S, Koike T, Suzuki Y, Satake S, Iguchi A. Evaluation of Mini-Nutritional Assessment for Japanese frail elderly. *Nutrition* 2005;21:498-503.
- Campbell JC, Ikegami N. Long-Term Care Insurance comes to Japan. *Health Aff (Millwood)* 2000;19:26-39.
- Tsutsui T, Muramatsu N. Care-needs certification in the long-term care insurance system of Japan. *J Am Geriatr Soc* 2005;53:522-7.
- Vellas B, Guigoz Y, Baumgartner M, Garry PJ, Lauque S, Albaredo JL. Relationships between nutritional markers and mini-nutritional assessment in 155 older persons. *J Am Geriatr Soc* 2000;48:1300-9.
- Visvanathan R, Macintosh C, Callary M, Penhall R, Horowitz M, Chapman I. The nutritional status of 250 older Australian recipients of domiciliary care services and its association with outcomes at 12 months. *J Am Geriatr Soc* 2003;51:1007-11.
- Soini H, Routasalo P, Lagstrom H. Characteristics of the Mini-Nutritional Assessment in elderly home-care patients. *Eur J Clin Nutr* 2004;58:64-70.
- Saletta A, Johansson L, Yifter-Lindgren E, Wissing U, Osterberg K, Cederholm T. Nutritional status and a 3-year follow-up in elderly receiving support at home. *Gerontology* 2005;51:192-8.
- Griep MI, Mets TF, Collis K, Ponjaert-Kristoffersen I, Massart DL. Risk of malnutrition in retirement homes elderly persons measured by the "mini-nutritional assessment". *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2000;55:M57-63.
- Wallace JI, Schwatz RS. Involuntary weight loss in elderly outpatients: recognition, etiologies, and treatment. *Clin Geriatr Med* 1997;13:717-35.
- Launer LJ, Harris T, Rumpel C, Madans J. Body mass index, weight change, and risk of mobility disability in middle-aged and older women. The epidemiologic follow-up study of NHANES I. *JAMA* 1994;271:1093-8.
- Keller HH, Gibbs AJ, Boudreau LD, Goy RE, Pattillo MS, Brown HM. Prevention of weight loss in dementia with comprehensive nutritional treatment. *J Am Geriatr Soc* 2003;51:945-52.
- Evans WJ, Campbell WW. Sarcopenia and age-related changes in body composition and functional capacity. *J Nutr* 1993;123(2 Suppl.):465-8.
- Dey DK, Rothenberg E, Sundh V, Bosaeus I, Steen B. Body mass index, weight change and mortality in the elderly. A 15 y longitudinal population study of 70 y olds. *Eur J Clin Nutr* 2001;55:482-92.
- Lui L, Bopp MM, Roberson PK, Sullivan DH. Undernutrition and risk of mortality in elderly patients within 1 year of hospital discharge. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2002;57:M741-6.
- Sullivan DH, Johnson LE, Bopp MM, Roberson PK. Prognostic significance of monthly weight fluctuations among older nursing home residents. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2004;59:M633-9.

Day Care Service Use Is Associated with Lower Mortality in Community-Dwelling Frail Older People

Masafumi Kuzuya, MD, PhD, Yuichiro Masuda, MD, PhD, Yoshihisa Hirakawa, MD, PhD, Mitsunaga Iwata, MD, Hiromi Enoki, MS, Jun Hasegawa, MD, and Akihisa Iguchi, MD, PhD

OBJECTIVES: To clarify the association between day care service use and 21-month mortality in community-dwelling frail older people.

DESIGN: Prospective cohort study (the Nagoya Longitudinal Study for Frail Elderly).

SETTING: Community-based.

PARTICIPANTS: One thousand six hundred seventy-three community-dwelling older people (540 men, 1,133 women).

MEASUREMENTS: Data included the clients' demographic characteristics; depression as assessed using the short version of the Geriatric Depression Scale; a rating for basic activities of daily living (ADLs); comorbidity; number of prescribed medications and physician-diagnosed chronic diseases; use of home-care services, including day care, visiting nurse, and home-help services; and number of regular medical checkups. Survival analysis of 21-month mortality was conducted using Kaplan-Meier curves and multivariate Cox proportional hazards models.

RESULTS: Of the 1,673 participants, 726 were day care service users at baseline, and 268 (94 day care service users, 174 nonusers) died during the 21-month follow-up. Multivariate Cox regression models adjusting for potential confounders showed that day care service use was associated with reduction in mortality. Subgroup analysis demonstrated that day care service use was associated with less risk of mortality in subjects who were female; were in the youngest age group (65–74); had higher ADL scores, lower comorbidity, depression, no dementia; and used a visiting nurse service. Participants using day care service two and three times or more a week had 63% or 44% lower relative hazard ratios, respectively, than participants not using the service.

CONCLUSION: Among community-dwelling frail older people, day care service use two or more times per week was associated with 44% to 63% lower 21-month mortality. *J Am Geriatr Soc* 54:1364–1371, 2006.

Key words: day care service; mortality; elderly

From the Department of Geriatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Showa-ku, Nagoya, Japan.

Address correspondence to Masafumi Kuzuya, Department of Geriatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, 65 Tsuruma-cho, Showa-ku, Nagoya 466–8550, Japan. E-mail: kuzuya@med.nagoya-u.ac.jp

DOI: 10.1111/j.1532-5415.2006.00860.x

In the last 2 decades, community care programs have been developed that aim at maintaining and improving the functional abilities and well-being of elderly people and reducing the use of institutional care services and mortality.^{1,2} Such programs for elderly people are part of the national policy in several countries, including Japan, which introduced a universal-coverage long-term care insurance (LTCI) program in April 2000.^{3,4} This program induced a radical change from traditional family-based care toward the socialization of elderly care and integration of medical care and welfare services.^{3,4} Under the LTCI program, care levels are determined according to eligibility criteria. Eligibility status is classified into six levels (“needs support” and care levels 1–5) by estimation of care needs based on an assessment of the current physical and mental status of patients and their use of medical procedures.⁵ The criteria for eligibility do not take into account the extent of informal family care available to clients. The maximum amount of reimbursement in the LTCI system is capped according to care level. Elderly beneficiaries pay a 10% copayment for services received. Care insurance covers two types of services: in-home (domiciliary) services (e.g., home help, bathing assistance, visiting rehabilitation, day care service, visiting nurse, assistive device leasing, short stays, in-home medical care, care management, and an allowance for the purchase of assistive devices and home renovation) and institutional services. One of the LTCI principles is to allow elderly persons and their family caregivers to choose the kind of services and service providers that they need.

Home care programs are often implemented with little evidence-based decision-making not only for clinicians but also policy for makers and caregivers. Increased demand for evidence-based decision-making is apparent not only in clinical settings but also in environments where related policies are written and enforced, thus creating a need for more research in this area. Of the services included in the LTCI program, there is little evidence of the effect of home-care services on the outcomes of the care recipients, including mortality. Day care service is provided in designated centers and is one of the major services used in LTCI programs. These are facility-based daytime programs of

nursing care, rehabilitation therapies, supervision, and socialization that enable frail, older people who are in poor overall health with multiple comorbid illnesses and varying physical or mental impairment to remain in the community. An individual visits the facility one, two, or three or more times a week and then returns to his or her own home. Although a number of reports have evaluated the beneficial role of day care service use on the caregivers of older persons,^{6,7} the effectiveness of day care service in terms of recipient outcomes of death, institutionalization, and disability has been questioned.^{8,9}

The Nagoya Longitudinal Study of the Frail Elderly (NLS-FE) was designed to compare outcomes of different uses of care services provided by the LTCI program using a structured comparison of services and a comprehensive standardized assessment instrument.¹⁰ The present study examined the effect of day care service on the mortality of community-dwelling older people eligible for the LTCI program.

METHODS

Subjects

The present study consisted of baseline data of the participants in the NLS-FE and mortality during the 21-month follow-up. Details of participants and the NLS-FE have been published elsewhere.¹⁰ The study population consisted of 1,875 community-dwelling frail older people (632 men, 1,243 women, aged ≥ 65) who were eligible for LTCI, lived in Nagoya City, and were provided various home care services from the Nagoya City Health Care Service Foundation for Older People, which has 17 visiting nursing stations associated with care management centers. These NLS-FE participants, enrolled between December 1, 2003, and January 31, 2004, were scheduled to undergo comprehensive in-home assessments by trained nurses at baseline and 6, 12, 24, and 36 months. At 3-month intervals, data were collected about any events participants experienced, including admission to the hospital, nursing home admission, and mortality. Informed consent for participation, according to procedures approved by the institutional review board of Nagoya University Graduate School of Medicine, was obtained verbally from the patients or, for those with substantial cognitive impairment, from a surrogate (usually the closest relative or legal guardian) and from family member caregivers.

Data Collection

Trained nurses collected data at clients' homes using standardized interviews with patients or surrogates and caregivers and from care-management center records. Data included clients' demographic characteristics, depressive symptoms as assessed using the short version of the Geriatric Depression Scale (GDS-15)¹¹ and a rating for seven activities of daily living (ADLs) (feeding, bathing, grooming, dressing, using the toilet, walking, and transferring) using summary scores ranging from 0 (total disability) to 20 (no disability).¹² The interview with participants also included questions about the use of care, including day care service, visiting nurse, and home help service, as well as medical services.

Information obtained from care management center records included the following physician-diagnosed chronic conditions: ischemic heart disease, congestive heart failure, cerebrovascular disease (CVD), diabetes mellitus, dementia, cancer, hypertension, and other diseases included in the Charlson Comorbidity Index,¹³ which represents the sum of a weighted index that takes into account the number and seriousness of preexisting comorbid conditions. In the present study, a physician diagnosed only a limited number of subjects with depression according to the care management center records. Therefore, participants were considered to be depressed if their GDS-15 score was 6 or higher. The data also included the number of prescribed medications.

For the analysis, 202 participants of the original 1,875 were excluded because of missing data for any type of service use or confounding/intermediary variables, leaving 1,673 in the analysis. Of these 1,673 participants, 391 could not complete the GDS-15 because of a severe cognitive or communication impairment.

Mortality was assessed over 21 months using event reports at 3-month intervals. Deaths were confirmed by visiting nurses or using care management center records. Survival time was defined as the number of months (3-month intervals) between the baseline interview and the event report of death or at 21 months from baseline, at which point the surviving participants were censored.

Statistical Analysis

The Student *t* test and chi-square test were used to compare differences between users and nonusers of day care service. The following baseline data of major clinical and socio-demographic data were used in a Cox proportional hazards model to identify independent predictors of 21-month mortality: age; sex; ADL status; living arrangement; number of prescribed medications; presence or absence of regular medical checkups; use or nonuse of home care services, including visiting nurse service, day care service, and home-help service; comorbidity status; and presence or absence of chronic disease, including ischemic heart disease, congestive heart failure, CVD, diabetes mellitus, dementia, cancer, and hypertension. The risk of a variable was expressed as a hazard ratio (HR) with a corresponding 95% confidence interval (CI). For the analysis, age was categorized into three groups (65–74, 75–84, and ≥ 85). The number of prescribed medications was categorized into three groups (≤ 2 , 3–5, and ≥ 6). ADL score (range 0–20) and Charlson Comorbidity Index were categorized into three groups with approximately equal number of participants in each group (ADLs: high function, ≥ 18 ; mid function, 12–17, and low function, ≤ 11 ; Charlson Comorbidity Index: ≤ 1 , 2–3, and ≥ 4). Additional analyses stratified by sex, age, ADL status, comorbid conditions, visiting nurse service use or nonuse, and presence or absence of dementia or depression were also performed using a consistent set of covariates to examine the data for possible interactions between these variables and 21-month mortality rate. For this analysis, age, ADLs, and Charlson Comorbidity Index were categorized into two groups (age: < 80 and ≥ 80 ; ADL score: < 15 and ≥ 15 ; Charlson Comorbidity Index: < 2 and ≥ 2).

Survival curves describing mortality over 21 months after enrollment were conducted for each group (day care service use 1, 2, and ≥ 3 times/wk and nonusers) using the Kaplan-Meier method, adjusting for potential confounders. All analyses were performed using SPSS version 11.0 (SPSS Inc., Chicago, IL). $P \leq .05$ was considered significant.

RESULTS

At baseline, higher Charlson Comorbidity Index, prevalence rates of CVD, and dementia and lower GDS-15 score were observed for day care service users than for nonusers (Table 1). The rates of nursing service use and home help service use by day care service users were lower than those of nonusers, but there were no significant differences between users and nonusers in sex, age, ADLs, presence or absence of regular medical checkups, and use of three or more regular prescription medications.

Of the 1,673 participants, 268 died during the 21-month follow-up. A lower mortality rate at the 21-month follow-up was observed in day care service users than in nonusers (12.9% vs 18.4%, $P = .003$) (Table 1). One hundred sixty-eight of the 1,282 participants who were able to complete the GDS-15 and 100 of the 391 who were not died during the 21-month follow-up. A higher mortality rate was observed in the participants who could not complete GDS-15 test than in those who could (25.6% vs 13.1%, $P < .001$). The participants with an incomplete GDS-15 measurement were older (82.3 vs 80.2, $P < .001$) and had lower ADL scores (9.5 vs 14.4, $P < .001$), a higher Charlson Comorbidity Index (2.4 vs 1.8, $P < .001$), and a higher prevalence of dementia (65.0% vs 26.3%, $P < .001$) and

history of CVD (43.0% vs 31.3%, $P < .001$) than those with a complete GDS-15.

Unadjusted univariate analysis suggested that 21-month mortality was associated with male sex (vs female, HR = 1.45, 95% CI = 1.14–1.86); the oldest age category (≥ 85 , vs 65–74, HR = 1.97, 95% CI = 1.40–2.76); mid and low ADL function (vs high function, HR = 1.91, 95% CI = 1.33–2.74, and HR = 3.55, 95% CI = 2.53–4.98, respectively); two or more medical checkups per month (vs no checkup, HR = 1.62, 95% CI = 1.22–2.14); visiting nurse service use (vs nonuse, HR = 1.84, 95% CI = 1.44–2.35); Charlson Comorbidity Index of 2 to 3 and 4 or higher (vs < 2 , HR = 1.56, 95% CI = 1.18–2.06, and HR = 2.26, 95% CI = 1.65–3.10, respectively); and the presence of congestive heart failure (HR = 1.63, 95% CI = 1.15–2.33), depression (HR = 1.42, 95% CI = 1.03–1.95), dementia (HR = 1.94, 95% CI = 1.53–2.47), and cancer (HR = 2.36, 95% CI = 1.71–3.26) (Table 2). Lower mortality was associated with living alone (vs living with someone, HR = 0.43, 95% CI = 0.30–0.63), day care service use (vs nonuse, HR = 0.70, 95% CI = 0.55–0.90), three to five prescription medications (vs < 3 , HR = 0.65, 95% CI = 0.48–0.89), and the presence of hypertension (HR = 0.68, 95% CI = 0.50–0.92). Table 2 shows two different multivariate Cox regression models. Model 1 is based on the inclusion of all of the variables used in univariate analysis except for the presence or absence of depression and chronic diseases. Model 2 includes the presence or absence of depression and other chronic diseases instead of the Charlson Comorbidity Index. Comparable results were found from these two models. Male sex (vs female, Model 1, HR = 1.49, 95% CI = 1.15–1.92; Model 2, HR = 1.66, 95% CI = 1.21–2.30), oldest age (vs 65–74 years, Model 1,

Table 1. Characteristics of Day Care/Service Users and Nonusers at Baseline

Characteristic	Day Care/Service		P-value
	User (n = 726)	Nonuser (n = 947)	
Men/women, (% of men/total)	240/486 (32.1)	300/647 (31.7)	.55
Age, mean \pm SD*	80.7 \pm 7.7	80.7 \pm 7.6	.90
Basic activities of daily living (range 0–20), mean \pm SD*	13.3 \pm 6.1	13.3 \pm 6.5	.99
Charlson comorbidity index, mean \pm SD*	2.1 \pm 1.6	1.9 \pm 1.6	.02
Geriatric Depression Scale-15, mean \pm SD (range 0–15)**†	6.2 \pm 3.6	6.7 \pm 3.7	.01
Chronic diseases (%)			
Ischemic heart disease	12.3	12.6	.85
Congestive heart failure	8.7	8.6	.93
Cerebrovascular disease	38.7	30.4	<.001
Diabetes mellitus	11.4	12.2	.61
Dementia	42.3	30.0	<.001
Cancer	8.4	9.2	.58
Hypertension	26.3	22.7	.09
Visiting nurse service use (%)	40.1	54.0	<.001
Home help service use (%)	31.7	58.8	<.001
Regular medical checkups (%)	58.1	59.3	.62
≥ 3 regular prescription medications (%)	79.9	78.0	.36
Living alone (%)	21.6	24.4	.18
Death during 21-month follow-up, n (%)	94 (12.9)	174 (18.4)	.003

* Student *t* test, others were analyzed using chi-square test (user vs nonuser).

† Day care service user (n = 552), nonuser (n = 730).

SD = standard deviation.

Table 2. Cox Proportional Hazard Model to Identify Independent Predictors of 21-Month Mortality

Variable	Death/Total	Hazard Ratio (95% Confidence Interval)	
		Univariate (n = 1,673)	Multivariate
		Model 1 (n = 1,673)*	Model 2 (n = 1,282)†
Men (vs women, death/total = 161/1,133)	107/540	1.45 (1.14-1.86)	1.66 (1.21-2.30)
Age (vs 65-74: death/total = 46/373)			
75-84	101/753	1.12 (0.79-1.59)	1.11 (0.72-1.71)
≥85	121/547	1.97 (1.40-2.76)	1.74 (1.11-2.74)
Basic ADLs (range 0-20) (vs high function (≥18): death/total = 45/555)			
Mid function (12-17)	87/602	1.91 (1.33-2.74)	1.30 (0.84-2.01)
Low function (≤11)	136/516	3.55 (2.53-4.98)	2.03 (1.27-3.25)
Living alone (vs with someone: death/total = 236/1,285)	32/388	0.43 (0.30-0.63)	0.84 (0.54-1.31)
Regular medical checkups per month (no regular checkup: death/total = 90/689)			
1	70/446	1.22 (0.89-1.67)	1.13 (0.75-1.69)
≥2	108/538	1.62 (1.22-2.14)	1.26 (0.87-1.84)
Formal care use (vs nonuse)			
Visiting nurse	165/802	1.84 (1.44-2.35)	1.27 (0.90-1.81)
Day care service	94/726	0.70 (0.55-0.90)	0.61 (0.44-0.86)
Home helper	122/787	0.95 (0.74-1.20)	0.85 (0.62-1.17)
Number of prescription medications (vs <3: death/total = 69/354)			
3-5	97/710	0.65 (0.48-0.89)	0.75 (0.48-1.16)
≥6	102/609	0.82 (0.61-1.12)	1.04 (0.67-1.61)
Charlson Comorbidity Index (vs <2: death/total = 97/750)			
2-3	112/637	1.56 (1.18-2.06)	1.31 (0.98-1.74)
≥4	69/286	2.26 (1.65-3.10)	1.44 (1.02-2.02)
Geriatric Depression Scale-15 score ≥6 (vs <6: death/total = 59/559)‡	109/723	1.42 (1.03-1.95)	1.25 (0.90-1.73)
Presence of chronic diseases (vs absence)			
Ischemic heart disease	30/208	0.89 (0.61-1.30)	0.91 (0.57-1.46)
Congestive heart failure	35/144	1.63 (1.15-2.33)	1.28 (0.79-2.07)
Cerebrovascular disease	94/569	1.01 (0.79-1.30)	0.74 (0.52-1.06)
Diabetes mellitus	39/199	1.25 (0.89-1.76)	1.39 (0.90-2.14)
Dementia	131/591	1.94 (1.53-2.47)	1.63 (1.16-2.30)
Cancer	44/148	2.36 (1.71-3.26)	2.56 (1.68-3.91)
Hypertension	49/406	0.68 (0.50-0.92)	0.77 (0.52-1.14)

* Model 1 includes sex, age, activity of daily living (ADL) status, living arrangement, presence or absence of regular medical checkups, use or nonuse of home care services, number of prescribed medications, and comorbidity status.

† Model 2 includes sex, age, ADL status, living arrangement, presence or absence of regular medical checkups, use or nonuse of home care services, number of prescribed medications, and presence or absence of chronic disease. †_n = 1,282.

HR = 1.99, 95% CI = 1.40–2.83; Model 2, HR = 1.74, 95% CI = 1.11–2.74), low ADL function (vs high function, Model 1, HR = 2.38, 95% CI = 1.61–3.51; Model 2, HR = 2.03, 95% CI = 1.27–3.25), Charlson Comorbidity Index of 4 or greater (vs <2, Model 1, HR = 1.44, 95% CI = 1.02–2.02), and presence of dementia (Model 2, HR = 1.63, 95% CI = 1.16–2.30) and cancer (Model 2, HR = 2.56, 95% CI = 1.68–3.91) were associated with 21-month mortality. Alternatively, lower mortality was associated with day care service use (vs nonuse, Model 1, HR = 0.68, 95% CI = 0.53–0.89; Model 2, HR = 0.61, 95% CI = 0.44–0.86), although the multivariate Cox regression model (Model 1) for the 391 participants who could not perform the GDS-15 demonstrated no significant effect of day care service use on 21-month mortality (HR = 0.85, 95% CI = 0.55–1.32). The association between day care service use and lower mortality already observed at 6-month follow-up (vs nonuse, Model 1, at 3 months, HR = 0.51, 95% CI = 0.26–1.01; at 6 months, HR = 0.64, 95% CI = 0.41–0.99; at 9 months, HR = 0.62, 95% CI = 0.42–0.92; at 12 months, HR = 0.62, 95% CI = 0.45–0.86; at 15 months, HR = 0.66, 95% CI = 0.49–0.89; at 18 months, HR = 0.71, 95% CI = 0.54–0.92).

Stratified, multivariate adjusted analyses performed between multiple subgroups showed that day care service use indicated less risk of all causes of mortality in subjects who were female (HR = 0.69, 95% CI = 0.49–0.97); younger than 75 (HR = 0.41, 95% CI = 0.21–0.84); had high ADL function (HR = 0.43, 95% CI = 0.21–0.91), the lowest comorbidity (HR = 0.50, 95% CI = 0.30–0.82), no dementia (HR = 0.60, 95% CI = 0.41–0.88), and depression (HR = 0.54, 95% CI = 0.35–0.82); and used a visiting nurse service (HR = 0.57, 95% CI = 0.40–0.82) (Figure 1).

Figure 2A shows the multivariate adjusted Kaplan-Meier survival curves exploring the association between frequency of day care service use and time to death (3-month intervals). The risk of mortality was lower for participants using day care service two or more times per week than for those using day care service once per week or less. In the Cox regression model adjusted for potential confounders, participants using day care service two and three times or more had 63% or 44% lower relative HRs (HR = 0.37, 95% CI = 0.20–0.67; HR = 0.56, 95% CI = 0.33–0.94, respectively) than participants not using the service (referent group: a simple black square in Figure 2B), although there was no significant association between once-weekly day care service use and risk of mortality (HR = 0.94, 95% CI = 0.61–1.45).

DISCUSSION

In the present study the risk factors for short-term (21-month) mortality of community-dwelling older people with varying physical and mental impairments were investigated. It was demonstrated that the risk factors were being male or aged 85 and older; having low physical function, high comorbidity, dementia, and cancer; and not using day care service. Most of these factors, including male sex, age, low physical function, and high comorbidity, are consistent with the risk factors for mortality in community-dwelling and hospitalized older people identified in previous observations.^{14–17} It has been reported that polypharmacy and depression are associated with mortality of older people,^{18–21} but in the present study, the number of medications was not identified as a mortality risk for community-dwelling frail older people. Depression was likely to be associated with 21-month mortality in univariate analysis, but this association was not confirmed in multivariate analysis adjusted

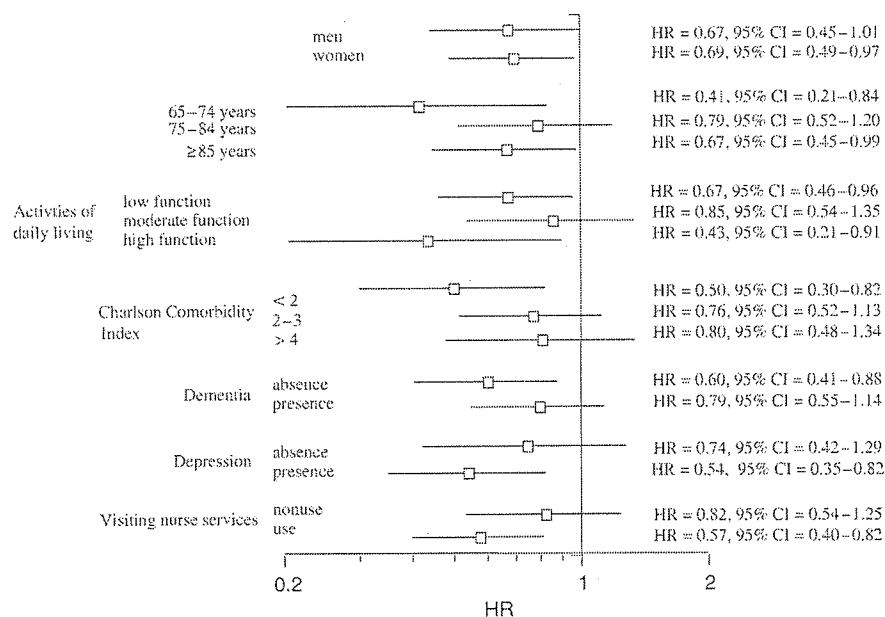


Figure 1. Stratified analysis of the risk of death in participants using or not using day care service. Estimates were obtained from Cox regression models adjusting for sex, age, activity of daily living status, living arrangement, number of medical examinations, visiting nurse and home help service use, number of prescribed medications, and Charlson Comorbidity Index. White squares are estimated hazard ratios (HRs) from a Cox proportional hazards model. The error bars represent 95% confidence intervals (CIs).

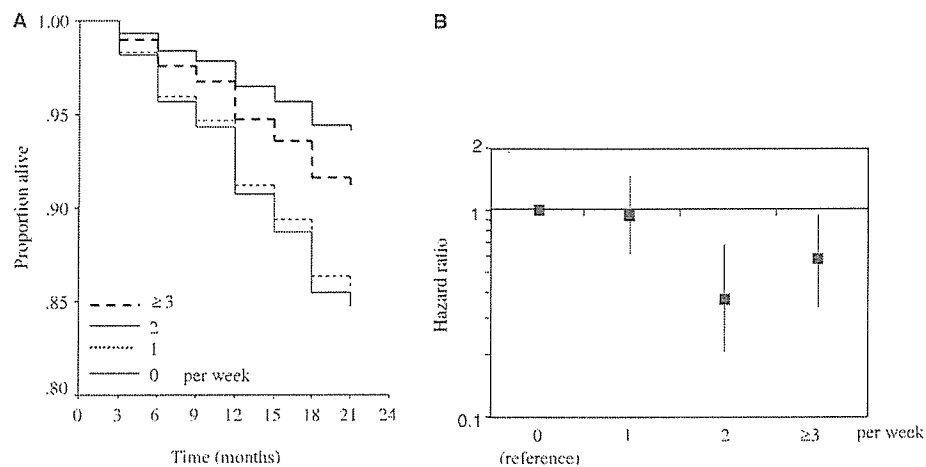


Figure 2. Frequency of day care service use (times per week) and all-cause mortality for community-dwelling frail older people. (A) Kaplan-Meier survival curve over the 21 months according to the frequency of day care service use (times per week), adjusting for sex, age, activity of daily living status, living arrangement, number of medical examinations, visiting nurse and home help service use, number of prescribed medications, and Charlson Comorbidity Index. (B) Risk of death according to frequency of day care service use (times per week) adjusting for potential confounders as described above. Y-axis is adjusted hazard ratios on a log scale. Black squares are point estimates from a Cox proportional hazards model adjusting for potential confounders. The error bars represent 95% confidence intervals. A simple black square without confidence intervals represented the referent group, without use of day care service.

for potential confounders. This finding differs from those of several prior studies of community-residing older adults that found that depressive status was an important predictor of mortality.^{20,21} There are several possible reasons for this difference between study results. The subjects in the current investigation were probably frailer and at higher mortality risk than those in these prior studies. All had multiple medical problems or functional limitations. These serious health concerns may have been stronger determinants of mortality than depressive status.

Subjects with day care service use had lower mortality in univariate analysis than nonusers, even if day care users had higher Charlson Comorbidity Indexes, higher prevalence rates of dementia, or a history of CVD. Multivariate analysis revealed that day care service use was associated with a 32% to 39% reduction in mortality, independent of sex, age, disability, comorbid condition, number of medications used, and presence of chronic diseases. In contrast, visiting nurse or home help service was not associated with lower mortality.

The finding of no advantage of day care service use for the 391 participants with incomplete GDS-15 measurement in terms of 21-month mortality may suggest that advanced age, significant limitations in physical and cognitive functions, and multiple comorbid conditions attenuate the beneficial effect of day care service on the mortality of community-dwelling older people. In fact, a subgroup analysis clearly showed that the day care service program reduced the 21-month mortality rate significantly in the youngest study populations (65–74). Furthermore, interactions were found between the effect of day care programs on mortality and ADL impairment, comorbidity, presence or absence of dementia and depression, and visiting nurse service use. The protective effect of day care service use is more evident in less-disabled elderly with lower comorbid-

ity, populations without dementia and with depression, and visiting nurse service users. These results indicate that the mortality risk was modifiable by day care programs in the youngest group (65–74) and populations with lower ADL impairment and lower comorbidity, no dementia, and depression. It was also found that the effect of day care service on mortality was much stronger in visiting nurse service users, suggesting that combined service intervention has more effect on the mortality of community-dwelling frail older people.

This study clearly showed that the frequency of day care service use affected its beneficial effect on 21-month mortality; after adjusting for potential confounders, there was no effect of day care service use once a week on 21-month mortality, but there was significantly lower mortality in those using day care service two or more times per week. These results suggest that frequent use of day care service reduces the risk of mortality and that once a week is not enough. This is in contrast to the recent report that risk of nursing home placement increased significantly with the number of days of adult day care attendance in older people with Alzheimer's disease.²² The exact reason for this beneficial role of day care service and which components of the day care service improve mortality is not clear, but multidisciplinary services conducted in day care service, including nursing care, rehabilitation therapies, supervision and socialization, bathing, and providing meals services, may be involved in the favorable outcome regarding the reduction in death for frail older people. Frequent use of day care services by older people with some disabilities increases the chance that day care staff, including nurses, will detect changes in physical and mental status. Periodic multidimensional evaluation for detection of modifiable risk factors for death and subsequent long-term intervention to modify these risk factors and to identify new risks by care